

令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 札幌市の事例（2018年度～）

<現状及び課題>

- 「令和3年度札幌市子どもの生活実態調査」（札幌市調査）の結果、困難を抱える世帯では学習環境が十分に整っておらず、成績に対する自己認知が低い傾向が見られたほか、大学進学を希望する割合が低い等、家庭の経済状況が子どもの学びの環境等に影響を与える可能性が示唆された。
- 小中学校での不登校児童生徒数は年々増加傾向。なんとか中卒後高校へ進学しても再び不登校となる生徒も多く、高校中退者のみならず、中退前の生徒に対しても支援することが求められている。（不登校児童生徒数…小学校1,489人（前年比+98人）、中学校3,347人（前年比+499人））
- 生活保護受給者数…71,288人（人口の36.1%、政令指定都市中2番目の多さ）

<取組内容及び実施方法>

【実施体制の整備】

- 市内で学習支援等の様々な支援に携わる民間団体との協力により「さっぽろ学びなおしネットワーク」を立ち上げ、民間団体の持つ学習支援のノウハウや人材を活用した学習支援を実施する体制を整備。

【学習相談・学習支援の実施】

- 15歳から39歳までの若者向けの総合窓口を設置している「札幌市若者支援総合センター」を中心として民間団体と連携し、実施。学習相談においては、LINEにて若者向け総合相談アカウントを常設。
- 交通費負担の軽減等、利用者の状況や希望に応じて、より身近な公共施設等を会場とした実施、インターネット・SNS等の通信を利用した学習支援、柔軟な時間帯設定等を行う。
- 通信制高校と連携を図り、ノウハウの提供や高校中退時の取得単位の活用について助言を受けながら、不足単位分の通学等を含めた幅広い高卒認定資格取得への支援を目指す。また、支援の中で何らかの事情により一旦支援中断となった者についても、定期的な連絡等に努め、再度意欲が湧いた際に対応できるよう見守りを実施。
- 学習支援終了後も参加者の能力や目標に合わせた適切な就労支援・社会参加支援を実施。

【広報の取組】

- 市内中学校・高等学校への訪問のほか、「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」の構成機関へも周知を行い、幅広いニーズの捕捉を実施。

<取組の成果>

- 本事業の実利用者（50名）のうち34名が高等学校卒業程度認定試験の受験や高等学校（入学・再入学・編入学）の受験、就職活動を実施し、約8割の28名が高等学校卒業程度認定試験合格、高等学校合格、就職を果たした。（高卒認定試験については27名が受験し、24名が合格※科目合格含む）

<今後の取組>

- 中退により支援が途切れた若者を再度支援に繋げていくことに課題はあるが、そのような若者に対し、中退や支援の途切れを防ぐ下支えとしての事業となる仕組みの促進。
- 支援の繋がりが機能している高等学校は市内の一部に留まっており、教育現場の中でも認知度は限定的であることから、今後さらなる高等学校への働きかけを目指す。



令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 札幌市の事例（2018年度～）

＜実施体制のイメージ図＞

